

Fashion

ファッション

「今」になじむデザイン

「庫革」に型を押し、一筆一筆、手描きで彩色。革の表面に漆を塗り、仕上げに真菰の粉を振る「鑄入れ」の工程を経ることで、独特の風合いを出している。和風から洋風まで多彩な色柄があり、製造しているものだけで70前後ある。

女性誌などで取り上げられ、注目が集まるが、職人による手作りのため、生産が追いつかず、入荷待ちの商品もある。運営する田中商店の田中威社長は「柄の数が多いので選んでいて楽しい、という声をいただいています。リピートして買っていただけるお

夏の和雑貨で涼しげに



客さまが1割弱いるんです。

一昨年、東京・浅草にオープンさせた店舗で、人気があるのが「天溝がま口」の財布（8800円）**写真①**。シヨップマネジャーの桜井萌子さんは「薄型でスマートな印象ですが、がま口の金具の上から革を差し込んでるので容量が多く、使いやすいですよ」。カードケースや長財布などもあり、好きな色や柄でそろえて購入しても楽しい。

夏に浴衣を着るときなどに

便利なのが、かんざし。「かざり工芸三浦」（東京都墨田区）では、舞台用から、とんぼ玉を使ったカジュアルなものまで幅広いかんざしを扱っている。全て、かざりかんざし職人の三浦孝之さんの手作りで。下絵から彫刻、溶接までを1人で行っている。細部まで作り込まれ、繊細な加工が施されたかんざしには、三浦さんのこだわりが詰まっ

京和傘の弱点である重さや大きさ

などを改良した。スイス人のデザイナーが担当し、和傘の特徴である竹骨を残しながら使いやすいようにコンパクトに設計。無地や花柄など6種類を展開している。

企画営業部の宮脇佑輔さんは「洋傘でも和傘でもない第3の傘を作りたい。伝統は革新の連続という考え方で商品開発に取り組んでいます」と話している。

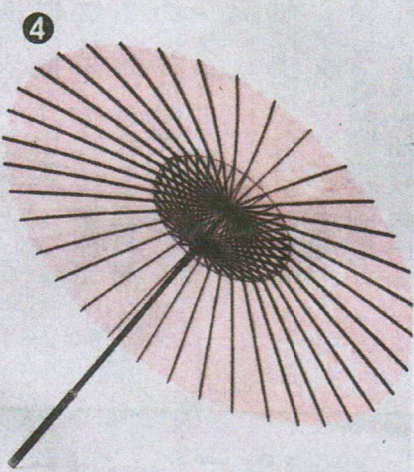
第3の傘

えたら

京和傘の日吉屋（京都市上京区）では、洋服にも合わせやすい和傘を提案している。

京都のテキスタイルメーカー「SOU・SOU」と組んで作った和日傘（1万7280円）**写真③**（日吉屋提供）はモダンなデザインが魅力。

和傘のデザインを残しつつ、使いやすさを追求したのが「ryoten」（2万5200円）**写真④**（同）だ。和傘の



デザイン職就活がうまくいかない

人生相談

この不安な状況に就く、卒業後、落ちてきたことを両親に話して

実際に美大を出てデザイン職に就いた女性に現状を聞いた。

すると、デザインでも、就活で重複コミュニケーションがとれます。企業